

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ひまわりのもり			
○保護者評価実施期間	①回目＝令和7年4月2日～令和7年4月11日		～	②回目＝令和7年10月1日～令和7年10月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	①②13	(回答者数)	①②12(家庭数12＝13名)
○従業者評価実施期間	①回目＝令和7年4月2日～令和7年4月11日		～	②回目＝令和7年10月1日～令和7年10月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	①②4	(回答者数)	①②4
○事業者向け自己評価表作成日	①令和7年 6月6日		②令和7年 11月28日	

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援室が広く構造化しやすい。小集団活動や個別支援のスペースをそれぞれ確保することが出来る	空間の構造化を行うことによって利用者が活動場所と活動の内容を結び付けて捉えることが出来やすくなり『自分はこちらで〇〇をする』の意識付けが出来ている	朝礼にて前日の支援の振り返りを行い、常に最新の情報で最適な空間づくりに努めている
2	特性に合わせた細やかな支援(自立課題・自由活動)に積極的に取り組み、利用者の「できる」を増やせるよう心がけている	特性により『できる』のラインが違うので、職員間で情報共有しながら個別の支援を行い、できた時は褒め、苦手感がある時は励まし、必要時は活動の変更も行っている	毎日の朝礼で情報交換を密にし、どこまで出来たか、どこが難しかったかの検証を行う
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練等を行った際には連絡帳やおたより、ホームページにて周知しているが、『必要な訓練が行われているか』について『わからない』の回答が1名いた	事業所としては十分な発信を行っていると考えていたが、保護者様にわかりやすい発信になっていたのか、案内文書の内容に不備はなかったか、再検討が必要	左記の周知方法の他に、自宅送迎時の申し送りを強化するとともに、過去の案内文書の内容確認をし、わかりにくい表現は次回文書配布時には変更する
2	放課後等デイサービス卒業後の進路について情報収集をされている保護者様も増えており、事業所として情報提供の場を増やしていきたい		地域の農福マルシェ等の情報発信、就労支援事業所や生活介護についての情報があれば随時案内を行う事で、保護者様の情報収集をサポートする
3			